

(様式1)

令和5年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(芳川)学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

- ・学校教育の実態を把握するためにも、参観会や学校行事へ参加できる機会を増やしていきたい。
- ・立ち上げた《ほうがわクスノキ応援団》のボランティア協力の呼びかけなどを通し、地域や保護者への教育実態の周知も進めていきたい。
- ・「応援団」の活動内容や、地域・家庭への情報発信方法など、掘り下げた話し合いを重ねていきたい。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

熟議できたと判断します。今年度も澤田校長より明快な説明をいただき、学校運営の基本方針を各委員が深く理解することができ、その上で熟議を重ね、学校教育目標の設定、経営理念を納得して承認できた。更に、いじめ防止基本方針についても資料と校長のプレゼンを受け、各委員の意見を積極的に交換することができ、熟議することができた。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

熟議できたと判断します。教育目標と目標に則した支援活動の実現を考え、支援の実行部隊として昨年設立した「ほうがわクスノキ応援団」の活動について熟議を重ねた。応援団の活動も活発になり、昨年以上の成果があった。これまでの活動を通し、今後の支援活動のあり方についても熟議することができた。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

情報発信を行えたと判断します。今年度、校内に新たに設置されたCSルームは、支援活動の拠点として良く機能しており、同時に情報発信の場としても活用されていた。CS便り、学校ホームページ等も活用し、情報発信を行った。学校からは校長発行のフェアリータイムズでの情報発信もあった。一方で、それらの発進力はあまり高くないのではないかと懸念される意見もあるため、次年度の課題とも言える。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

「ほうがわクスノキ応援団」の活動内容を、家庭や地域や自治体等へ向けてこれまで以上に発信し、ボランティアへの理解を深めていきたい。

校外の協力者を増やし、教職員の皆様と共に、「子どもの安全、安心」のために適切な支援活動のあり方を考えて行く。

子どもたちが「夢に向かって ともにかがやく」事ができるように、一生懸命努力できる学校になるよう、これからも支援していきたい。